

わたしの選択 あなたの未来

プロレタリアートへのメッセージ184

『わたしの選択 あなたの未来』編集委員会



目 次

あなたとわたしとの対話

機械化する心の危険……………	井口 泰子	作家……………	21
みずから生きること、ともに生きること……………	一番ヶ瀬康子	日本女子大学教授……………	22
対話の創造力……………	及川 和男	作家……………	24
未来の対等社会へむかって……………	岡部伊都子	随筆家……………	26
使い捨て時代……………	尾崎 千秋	放送タレント・大阪樟蔭女子大学講師……………	28
食事・家族は文化継承の場……………	小山内美江子	シナリオ・ライター……………	29
平和のアンカーに……………	早乙女勝元	作家……………	31
サエナイ人間こそ個性がある……………	ジエームス・三木	シナリオ作家・歌手……………	33
ニューヨークはアメリカではない……………	茂山千之丞	狂言役者、演出家……………	35
人生は“闘争”である……………	芝田 進午	広島大学教授……………	36

あなた、あいさつする人? 受ける人? 寿 岳 章 子 京都府立大学教授 38

社会を革新するのは 住 井 すゑ 作家 40

「ヘルシー・ミドル」の未来 田 北 亮 介 龍谷大学教授 42

「フレイムアップ」の潮流 永 井 智 雄 新劇人会議・俳優座 43

変わらない日本人 西 村 京 太 郎 作家 45

死生を越える価値 沼 田 稲 次 郎 都立大学名誉教授・国際民法法律家協会会長 47

女と仕事 藤 本 統 紀 子 エッセイスト 49

精神と気概 丸 岡 秀 子 評論家 50

わが町を変える楽しさ 山 口 勇 子 作家 52

三浦事件と人権感覚 和 久 峻 三 作家・弁護士 54

間違いの来し方、不安の行く末 和 多 田 勝 エッセイスト 56

「現代」をとらえなおす

怒りを束ねて未来を創る 秋 葉 英 則 大阪教育大学教授 61

「いじめ」うち破る運動と中小業者 入 谷 勲 大阪商工団体連合会理事長 62

「天皇制」と現代……………	岩井忠熊	立命館大学教授……………	64
確実に近よっている労働者の時代……………	岩尾裕純	中央大学名誉教授……………	65
研究者の自主性の尊重、それは今日の国民的課題……………	植村幸生	阪南大学教授・工学博士・産業技術論……………	67
好きな言葉二つ……………	江口英一	中央大学教授……………	69
次代への期待のために……………	大岡欽治	演出家……………	71
働くものの未来への選択……………	岡映	全国部落解放運動連合会中央執行委員長……………	73
核時代をどう生きるか……………	岡倉古志郎	アジア・アフリカ研究所所長……………	75
孤立を恐れず正論を……………	亀田得治	弁護士……………	76
NTTと情報通信産業の新局面……………	儀我壮一郎	専修大学教授・大阪市立大学名誉教授……………	78
「中流意識」からの解放……………	木津川計	『上方芸能』編集長・立命館大学教授……………	80
変化するものと変化しないもの……………	北田寛二	労働者教育協会副会長……………	82
現代日本社会と労働組合……………	北野弘久	日本大学法学部教授……………	84
非核政策のかぎりなき後退……………	具島兼三郎	元長崎大学学長・九州大学名誉教授・長崎総合科学大学平和文化研究所名誉所長・法学博士……………	85
いまの時代をどう見るか……………	黒田了一	元大阪府知事……………	87



人間生活・発達視点でみるなら	佐々木一郎	横浜市立大学助教	89
転換期の目	真田 是	立命館大学産業社会学部教授	91
詐欺列島と良心	清水 誠	東京都立大学教授	92
「貧困」と危機にどう立ち向かうか	下垣内博	全大阪消費者団体連絡会事務局長	94
軍拡経済は武器を使わなくても人を殺す	鷲見友好	法政大学教授	95
日本経済の国際化と労働者	清山卓郎	大分大学教授	97
新保守主義経済のゆくえ	関 恒義	一橋大学教授	99
戦後四〇年の日本	田畑 忍	同志社大学名誉教授	101
いまの時代をどうみるか	辻岡靖仁	労働者教育協会理事長	102
核自殺を拒否し生命を選択する労働	土山 牧羔	元大阪基督教短大学長	104
「経済大国」と日本農業	暉峻衆三	宇都宮大学教授	106
歴史の前進のために	土井正興	専修大学教授	107
地域づくりと自治の創造	中西啓之	法政大学講師	109
中小企業と倒産	中山金治	日本大学教授	111
経済危機の「周辺化」に対処する労働運動	永山利和	日本大学教授	112
文化をめぐる	浜島康弘	名古屋青年合唱団団長 日本全国協議会幹事長	114

「経済大国」の虚像と実像	浜林 正夫	一橋大学教授	116
愚さを気づかない日本人	早川 和男	神戸大学教授	118
激動の時代を人間らしく生きるために	平井 正也	大阪府保険医協会理事長	120
文化のにない手となるために	間島 三樹夫	文団連事務局長	122
対話を切り裂く情報システム	水沢 透	評論家	124
一科学者の願い	三宅 泰雄	地球化学研究協会理事長	125
二一世紀に向けた労働者のたたかい	室井 力	名古屋大学教授	127
「危機対処」の二面性	森 英樹	名古屋大学教授	129
自由を我等に	山口 孝	明治大学教授	130
現代の産業構造の危機を見つめよう	山本 博	弁護士	132
円高と中小企業	渡辺 睦	明治大学教授	134

労働の変化をみつめなおす

健康をまもる共同をつよめよう	相沢 与一	福島大学教授	139
中小企業の地位と労働組合	相田 利雄	法政大学教授	140

イギリスのパプから「日本の労使関係」を考 える	青山茂樹	静岡大学助教授	142
労基法抹殺阻止闘争の視点	浅井清信	立命館大学名誉教授	143
労働と生きがい	板原克介	岸和田障害者共同作業所 所長	145
技術革新の流れと労働運動	大西耕三郎	公認会計士	148
企業社会民主化への提言	角瀬保雄	法政大学教授	149
労働の人間化	片岡昇	京都大学教授	151
私たちのくらしは、いま	金持伸子	日本福祉大学教授	154
「人間らしく働く」ということは	木元進一郎	明治大学教授	155
労働・生活・意識、生活の全面的な見直しを	京谷栄二	横浜市大他非常勤講師	157
ME化の成果を私たちの手に	伍賀一道	金沢大学経済学部助教授	159
女性労働者の権利発展について思うこと	坂本福子	弁護士	161
明日への精神	坂寄俊雄	日本福祉大学教授・立命館 大学名誉教授	163
A君の死をめぐって	佐古田好一	同授研代表幹事	164
ME革命と労働者	高橋祐吉	専修大学助教授	166
「働き盛り」の健康と労働者の 運動	田尻俊一郎	淀協社会医学研究所所長	168

労働組合運動に望むこと……………	寺 沢 勝 子 弁護士……………	170
技術革新への視点……………	仲 村 政 文 鹿児島大学教授……………	172
情報化社会への適応不安と労働者の未来……………	成 瀬 龍 夫 滋賀大学助教授……………	174
ME「合理化」と「高度情報化社会」論……………	原 嘉 彦 九州産業労働科学研究所副 所長……………	176
「国内市場拡大」と「春闘」……………	藤 本 武 前日本女子大教授……………	178
この時代に生きることと大切に……………	細 川 汀 京都府立大学教授……………	179
産業別最賃廃止の条件……………	牧 野 富 夫 日本大学教授……………	181
働く者の権利とモラル……………	松 岡 三 郎 明治大学名誉教授……………	183
西欧の不安定労働者とともに……………	三 富 紀 敬 静岡大学助教授……………	184
働く者の五つの権利……………	三 好 正 巳 立命館大学経済学部教授……………	186
ある大企業労働者の思い……………	元 島 邦 夫 埼玉大学教授……………	188
障害者の所得保障改善の裏側……………	渡 辺 清 社会保険労務士……………	189
日本の労働組合運動―現在と未来		
少数支配は強がりの衣をかぶる…………… 青 木 慧 ジャーナリスト（フリー）……………		195



二つの論文から……………	板垣 保	ジャーナリスト……………	196
苦しく困難だが正しい方向でねばりつよくた たかう以外にない……………	一ノ瀬秀文	前大阪市立大学教授……………	198
心を灼く運動を……………	伊東 壮	山梨大学教授……………	200
若者たちの心に労働運動と協同を……………	今崎 暁巳	ドキュメント作家……………	201
「自由民権百年全国集会」を開催して……………	大石嘉一郎	東京大学教授……………	203
労働運動は太陽である……………	大石 重一	全国老後保障地域連絡会代 表委員……………	205
権利闘争の貧困と克服のために……………	大川 真郎	弁護士……………	206
「国際化」のなかの日本労働者階級……………	加藤 哲郎	一橋大学助教授……………	208
これからどうする、労働組合……………	木下 武男	法政大学講師……………	210
労働組合運動を再生させるもの……………	栗田 健	明治大学教授……………	211
労働組合運動の法則的發展に関連して……………	小林 勇	国際労働運動研究者……………	213
ひとつの肉声を……………	小林 久三	作家……………	215
「母さんの樹」が語りかけるもの……………	塩田庄兵衛	立命館大学教授……………	216
「生活者」としての自立へ……………	重森 暁	大阪経済大学教授……………	218
階級拡散状況と労働運動の再生……………	清水 慎三	元信州大学教授……………	220

中小企業労働組合運動の新しい流れを……………	水津雄三	阪南大学教授……………	222
いまこそ労働者自身の手に「文化運動」を……………	すずききよし	作曲家・シンガーソングライター……………	223
民間活動家集団と連携を……………	芹沢寿良	高知短期大学教授……………	225
一労働問題研究者の意見……………	高木督夫	法政大学教授……………	227
労働組合にのぞむこと……………	高田求	労働者教育協会常任理事……………	228
人間らしくということ……………	田沼肇	法政大学教授……………	230
作家の組合……………	寺島アキ子	脚本家……………	232
文化と文化問題につよくなること……………	土井大助	詩人……………	234
あるスローガンの理解について……………	戸木田嘉久	立命館大学教授……………	236
人づくりとしての労働運動……………	富沢賢治	一橋大学教授……………	237
いま、大切なこと……………	豊川義明	弁護士……………	239
いま、労働運動に求められているもの……………	中原弘二	佐賀大学経済学部教授……………	241
労働組合再生への道……………	西谷敏	大阪市立大学教授……………	243
労資運命共同体からの脱却……………	野村拓	大阪大学医学部助教授……………	245
日本の労働組合に望むこと……………	畑田重夫	労働者教育協会会長……………	246
日本労働運動に未来はあるか……………	藤本正	弁護士・総評弁護士副会長……………	248

労働組合は生活者たる労働者の要求に応えよう

船越 康 亘

全大阪借地借家人組合連合会事務局長

250

企業の競争原理に歯止めをかけられる労働組合を！

本多 淳 亮

大阪市立大学教授

253

職場活動の再構築を

松 尾 洋

労働運動史研究者

255

イタリア労働運動における「下からの統一」と文化の問題

松 田 博

立命館大学教授

256

長い戦後の、いま、なにを？

道 井 直 次

関西芸術座・演出家
全国児童・青少年演劇協議会委員長

258

働くものの全生活を視野に

望 田 幸 男

同志社大学文学部教授

260

いま、労働組合運動に期待したいこと

山 口 定

大阪市立大学教授

261

家族・家庭・生活づくり

労働運動に「教育」を

青 木 一

教育評論家

267

生活の質、文明の質

秋 間 実

東京都立大学教授

268

健康について

朝倉新太郎

大阪大学教授

270

きみはどんな親になりたいか

荒 木 昭 夫

日本児童演劇・劇団協議会事務局長

272

労働者は子に何を遺すか……………	荒又重雄	北海道大学教授……………	274
“相互扶助”を私たちの手に取り戻そう……………	池田敬正	京都府立大学教授……………	275
労働者の家庭があぶない……………	石田一宏	新松戸診療所所長・医師……………	277
働くものの教育の要求を……………	大槻健	早稲田大学教授……………	279
立ち止まる時間と空間を……………	かたおかしろう	劇作家……………	281
地域協同社会に生きがいを……………	勝部欣一	日本生協連副会長……………	282
地域と文化のこころ……………	門倉 諒	詩人……………	284
現代生活と子ども……………	川合 章	埼玉大学教授……………	286
地域からのミニマム保障運動を……………	河合克義	明治学院大学助教授……………	287
今日の生活と文化……………	小溪住久	美術家……………	289
子どもたちの夢・働く者たちの夢……………	後藤竜二	児童文学作家……………	291
ARCIと日本の文化協同について……………	佐藤一子	埼玉大学助教授……………	292
保育所は働く者の砦……………	清水住子	堺・いづみ保育園園長……………	294
“高齢化家族との対決”……………	住谷 馨	同志社大学教授……………	296
特攻精神と遊び……………	芹沢憲一	小豆沢病院長……………	297
「弱者」との連帯……………	高谷 清	第一びわこ学園園長……………	299



「豊かさ」の実感は……………	滝いく子	詩人……………	301
労働者は夜、なにをしとるんでしょうか……………	露乃五郎	落語家……………	303
視野をひろく、「表現」をもつ……………	早船ちよ	作家……………	304
健康づくり新ルネッサンス……………	日野秀逸	国立公衆衛生院衛生行政室長……………	306
人生って分らんもんや……………	日比野都	体験語り業……………	307
疎外された愛をとりもどすために……………	布施晶子	札幌学院大学教授……………	309
子どもの生活と健康の現状と課題……………	堀江重信	みなみ子ども診療所所長……………	310
様変わりした今日の労働者世帯生活……………	松崎条太郎	上智大学助教授……………	312
子どもの変質、家庭の変化……………	丸木政臣	和光学園校長……………	314
近代日本の教育を知り考えること……………	山住正己	東京都立大学教授……………	315
労働の現場から、生活者として……………	山家和子	日本母親大会連絡会役員……………	317
人間らしく子どもを育てるたたかいを……………	横田昌子	大阪保育運動連絡会副会長……………	319
個性的表現を大切に……………	ヨシトミヤスオ	マンガ家・京都精華大学教授……………	320

青年・女性の未来に語りかける

17	目次		
	次の世代をになう人びとへ……………	家永三郎	東京教育大学名誉教授…………… 325
	きらめく知性とイキイキ行動を……………	石井あや子	新日本婦人の会会長…………… 326
	高齢化社会と女性……………	石垣綾子	評論家…………… 328
	新しき明日……………	碓田のぼる	歌人…………… 330
	国家秘密法反対運動のなかで……………	小田中聰樹	東北大学教授…………… 332
	等しく愛と知性を……………	角橋徹也	都市計画家…………… 334
	新しい状況に正面からたちむかう……………	北川隆吉	名古屋大学教授…………… 336
	青年の心を動かそう！……………	北村実	早稲田大学教授…………… 337
	たたかいは、これから……………	榎田ふき	日本婦人団体連合会会長…………… 339
	平和を守りつづける誓い……………	黒木三郎	早稲田大学教授…………… 341
	私の労働者意識……………	小山乃里子	タレント・エッセイスト…………… 342
	男女の同権を……………	猿橋勝子	東邦大学客員教授…………… 344
	17 開き始めた女性のチャンス……………	下重暁子	エッセイスト・作家…………… 346

主婦にとって労働組合……………	菅原 藤子	大阪母親連絡会委員長……………	348
事実にして青年と対話を……………	林 直道	大阪市立大学教授……………	349
女の涙の意味を知ろう……………	増田 れい子	ジャーナリスト・毎日新聞 「女のしんぶん」編集長……………	350
戦争を知らない若い世代……………	山口 正之	大阪経済法科大学教授……………	352
若い世代との対話の可能性を求めて……………	横井 芳弘	中央大学教授……………	354
青年の可能性への信頼とは……………	吉井 清文	関西勤労者教育協会会長……………	356
付録……………			359
あとがき……………			367

て組合員の政治的関心を高めることにつとめる、ということではない、と思います。

一、自分のスローガンをもつこと（借りもののスローガン、机上で作文されたスローガンではない、地声のきこえる個性的なスローガン、生活と歴史の裏づけがあるスローガンを）。

一、組合員の家族に読んでもらうつもり、読ませるつもりであらゆる文書を書くこと。

一、組合活動とはこういうものであるはずだ、こういうものであるべきだ、という「ハズ主義」「ベキ主義」からの脱却。

一、パート、下うけの人びとをふくめ、未組織の組織化ということをも自分自身の問題として日常的に意識すること。

一、全組合員を対象にした組合員教育の制度化を本気で（金も時間もかけて組織的に）追求すること（「教宣部」の仕事を宣伝活動だけに解消しないこと）。

一、自主的な学習サークル、文化サークルの育成に、組合として、方針をもって努力すること（同時に、それらのサークルが組合の下部組織ではなく、自主的、自立的組織であることを十二分に理解し尊重すること）。

一、ユーモアをもつこと（自分自身にたいするユーモア、ということがまず基本です。他人へのユーモアは、その基礎のうえにのみ生じます）。

人間らしくということ

田 沼

肇

いまの世のなかでは、自分にあたえられている仕事について、こんなにつまらぬことをくりかえ

たぬまはじめ
一九二六年四月生れ
法政大学教授

しながら定年までいきついでしまうのだろうか、だいたい定年までいきつけるのだろうか、などと悩んだりするのはやめた方がよい。零細企業の労働者やパートが、先行きに疑念を抱くのもやめた方がよい。こういうことは、その人にとって「不適応者」のレッテルをはられる結果になるからだ。職制の命令にたてつくような反抗心をおこさず、展望のない灰色の生活にも耐えなければならぬ。

——これらは、ひろくみられる現象である。

ところで、前向きの能動性と、内省的な精神のはたらきとは、人間だけがもっている能力だ。今日、多くの労働者が深刻に体験している職場の状態は、このような人間だけがもっている能力との衝突に結びつかざるをえない。

資本家は、本質的にいって、生産性に関心をもつが、労働者の人間性などはカヤの外である。職制も、かれら自身が人間性を奪われているから、労働者の人間性もみえなくなっている。こうして、職場では労働者が人間扱いされていないのだが、人間はそこにいるのだから、矛盾が生ずることは避けられない。資本家は、労務管理のあらゆる手法を利用して、こうした事態をとりつくり、ようやく支配を維持しているにすぎないのである。

人間らしく生きるといえるのは、べつのいいかたをすれば、自分の頭で考え、自分のことばや行動をきめていくことである。それは、前に述べた人間だけがもつ能力にもとづいている。

このような生きかたをしていくうえで、問題は職場のなかにのみあるのではない。民衆の横への連帯を妨げる日本的なタテ社会の影響も、無視できない。個性を集団の力で押しつぶし、論理より情緒が先行する共同体的なものの存在（欧米とくらべて、はるかに強力な存在）がそれである。人間らしく生きることが、われわれにとって、日本の民主主義の前進と結びついている。

「個」の尊重は、けっしてエゴイズムを意味しない。真の連帯のひろがりには、まずなによりも、

日常生活のなかで、他人の人権を尊重することからはじまる。一方、人権を尊重するといふとき、正しく自己主張をしないにおいて、他人の権利を守ることができない。政治がどんなに悪質であっても、またそうであればあるほど、われわれには、自分自身の選択すべき道がある。

最後に、労働組合運動の原点として、労働者が自分たちを人間らしく扱えという要求があることを強調しておきたい。この原点が、労働組合運動の現状のなかで、かならずしも正しく発展させられていないのではないかと思われる。われわれが人間らしく生きることを追求するために、現代の諸条件のもとでは、労働組合のはたすべき役割が、ひじょうに大きいといわなければならない。

作家の組合

寺島 アキ子

てらしまあきこ
一九二六年六月生れ
脚本家

わたしは評論家ではありませんから、現在の労働組合運動のありようを批評する気はありません。最近、組合運動を活発にしたために誠首された実在の女性を主人公にした映画のシナリオを書きましたが、それとても、組合運動そのものを書いたわけではありません。

その主人公のモデルは、全電通の新潟県支部役員だった近藤芳子さんです。本部の指令で二時間の職場大会をしたことを理由に、電々公社から誠首され、しかも数年後、全電通からも除名されたのです。

誠首は不当だと、近藤さんは、二五年間裁判闘争をつづけ、現在も、最高裁でたたかっています。納得がいけないことを、「納得がいけない」といつづける近藤さんの生き方に、わたしは共感しました。

編集委員会

戸木田嘉久 (立命館大学教授, 1924年生まれ)

本多 淳亮 (大阪市立大学教授, 1925年生まれ)

寿岳 章子 (京都府立大学教授, 1924年生まれ)

木津川 計 (立命館大学教授, 『上方芸能』編集長, 1935年生まれ)

村上 恭介 (連合通信社関西総局長, 1951年生まれ)

小林 康二 (全大阪金属産業労働組合委員長, 1939年生まれ)

わたしの選択 あなたの未来

1986年6月10日 初版第1刷

編集委員会◎ 戸木田嘉久／本多 淳亮

寿岳 章子／木津川 計

村上 恭介／小林 康二

発行者 柳 沢 明 朗

発行所 株式会社 労働旬報社

東京都文京区目白台2-14-13

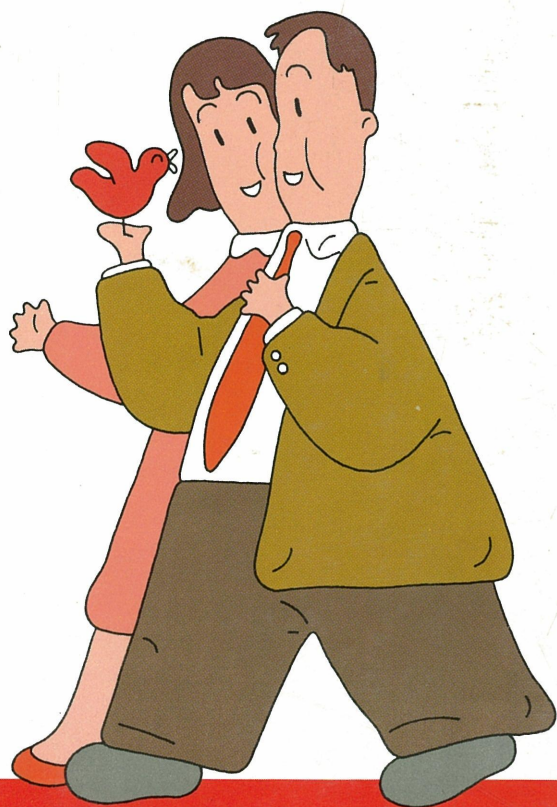
電話 03-943-9911 (代)

振替東京 0-180374

印刷所 (株) 平 文 社

定価はカバーに表示してあります

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製（コピー）することは法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めて下さい。



労働旬報社

ISBN4-8451-0008-8 C3036 ¥1500E

定価1,500円